

令和 5 (2023) 年度

事 業 報 告 書

自 ; 令和 5 年 (2023 年) 3 月 1 日

至 ; 令和 6 年 (2024 年) 2 月 29 日

公益財団法人

日本高等学校野球連盟

1. 高等学校野球の普及、振興、指導及び監督

- (1) 年度内に評議員会を2回、理事会を8回、それぞれ開催して案件の審議、決定を行いました。また業務運営委員会を年9回開催（8、10、12月を除く）して当面の諸案件について協議、連盟運営の円滑化を図りました。
- (2) 年度内に各種委員会（総務、財務、審判規則、選手権大会運営、選抜大会運営、軟式部、技術・振興）を必要に応じて随時開催し、諸問題の検討を行い、高等学校野球の健全な育成、発達に努めました。また、審議委員会を開催し(全体委員会を年5回、小委員会を週1回計45回)、不祥事件に対する指導を行うとともに、不祥事件発生防止の重点目標を5項目（指導者の暴力(体罰)行為、暴言、不適切な発言の根絶、部員の暴力・いじめ行為の根絶、インターネットを利用した誹謗中傷、迷惑行為などの防止、部活動引退後の3年生部員への指導の徹底、アウトオブシーズン中の指導の徹底）を挙げて、諸会議や通達で指導徹底を行いました。さらに「高校野球200年構想」推進委員会を随時開催し、「普及・振興」「けが予防・育成」「財政・財源」を3つの柱として、高校野球の未来について協議しました。
- (3) 年度内に各都道府県高等学校野球連盟会長会議を1回、同理事長会議を4回それぞれ開催し、新型コロナウイルス感染拡大の中、昨年同様に加盟団体との連絡と諸問題の伝達、徹底を計りました。
- (4) 本年度も『大会参加者資格規定』を定め、各都道府県連盟に通達し、加盟校への指導を要請しました。
- (5) 各種表彰(日本学生野球協会優秀選手表彰、育成功労賞表彰)を行いました。
- (6) 高等学校野球の普及、振興のため、部員不足による連合チームの大会参加を本年度も認めることとしました。

2. 高等学校野球大会その他の試合の開催及び協力

(1) 第95回記念選抜高等学校野球大会

毎日新聞社と共催で令和5年3月18日(土)から4月1日(土)までの15日間(雨天順延2日<23日、26日>、休養日1日<30日>)、阪神甲子園球場で開催、令和5年1月27日(金)に開かれた選考委員会で選考された32校が参加、無事盛況のうちに終了し、山梨学院高等学校(山梨)が初優勝を果たしました。準優勝は報徳学園高等学校(兵庫)。

(2) 第105回全国高等学校野球選手権記念大会

朝日新聞社と共催で令和4年8月6日(日)から23日(水)までの18日間(雨天順延1日<15日>、休養日3日<18、20、22日>)、阪神甲子園球場で49校が出場して開催した。慶應義塾高等学校(神奈川)が107年ぶり2回目の優勝を果たしました。準優勝は仙台育英学園高等学校(宮城)。

選手の健康管理や障害予防などの観点から、今大会より選手の登録人数を18

名から20名に増やした。また、近年の懸案事項である暑さ対策の一つとして、今年は5回裏終了時から10分間のクーリングタイムを実施した。

(3) 第68回全国高等学校軟式野球選手権大会

全日本軟式野球連盟、朝日新聞社、毎日新聞社の後援を得て、令和5年8月24日(木)から29日(火)までの6日間(休養日1日<27日>)、兵庫県の明石トーカロ球場とウインク球場(姫路球場)の2球場で開催しました。参加校は全国16地区から各1校ずつ計16校。中京高等学校(東海・岐阜)が2年連続12回目の優勝を果たしました。準優勝は天理高等学校(奈良)。

選手の健康管理や障害予防などの観点から、今大会より選手の登録人数を16名から18名に増やした。

(4) 特別国民体育大会・高等学校野球競技

鹿児島県で硬式の部、軟式の部ともに令和5年10月9日(月)から11日(水)までの3日間(雨天中止<8日>)で下記の通りそれぞれ開催しました。

硬式の部は、鹿児島市の平和リース球場で8校が参加、大会規定により仙台育英学園高等学校(宮城)【11年ぶり2回目】と土浦日大高等学校(茨城)【49年ぶり2回目】の両校1位となりました。1回戦が2日間開催となったことに伴い、決勝を行わず準決勝の勝者が両校1位となった。

軟式の部は、出水市のブルーチップスタジアムで8校が参加、天理高等学校(奈良)が7年ぶり3回目の1位となった。2位は河南高等学校(大阪)。

(5) 第54回明治神宮野球大会・高等学校の部

令和5年11月15日(水)から20日(月)までの6日間(雨天による日程変更あり、休養日1日<19日>)、明治神宮野球場で開催。高等学校の部は、秋季地区大会の優勝校10校が参加し、星稜高等学校(北信越・石川)が32年ぶり3回目の優勝を果たしました。準優勝は作新学院高等学校(関東・栃木)。

(6) 春季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道(札幌)、東北(岩手)、関東(神奈川)、北信越(石川)、東海(静岡)、近畿(大阪)、中国(山口)、四国(高知)、九州(熊本)の全国9地区で令和5年4月下旬から6月上旬にかけて開催しました。

(7) 秋季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道(札幌)、東北(秋田)、関東(栃木)、東京、北信越(福井)、東海(岐阜)、近畿(大阪)、中国(岡山)、四国(徳島)、九州(福岡)の全国10地区で令和5年10月上旬から11月上旬にかけて開催しました。

3. 高等学校野球に関する調査及び研究

(1) 加盟校数、部員数調査

令和5年5月末現在の硬式、軟式それぞれの加盟校数、部員数調査を今年も実施しました。集計結果は硬式が128,357人(2,902人減)で8年連続の減少、

軟式が7,672人(148人減)となった。また、加盟校数は硬式が昨年から39校減の3,818校、軟式が12校減の387校となった。

4. 高等学校野球選手、部員等のスポーツ障害予防及び健康増進

(1) 昨年同様、公式戦において1週間500球以内の投球数制限を実施、スポーツ障害の予防に努めました。

(2) 年度内に開催の第95回記念選抜大会と第105回選手権記念大会に参加した投手全員を対象に、大会前に肩、肘の関節機能検査を実施、スポーツ障害の予防に努めました。検査結果の概要は次の通り。

| | (95回選抜) | (105回選手権) |
|--------|---------|-----------|
| 検査受診者数 | 140人 | 191人 |

検査の結果、大会規定による投球禁止適用者はいなかった。

(3) 令和6年度のシーズンインとなる第96回選抜高等学校野球大会ならびに都道府県高校春季大会から硬式の金属製バットは、新基準への完全移行となる。この目的は、投手の受傷事故防止対策である。

また、軟式用の金属製バットについては、高校野球用具の使用制限に合致するものが少ないため、令和5年度と同制限から使用できるカラーを緩和する。このような状況下、朝日新聞社、毎日新聞社、日本高校野球連盟は、全国の高校野球のなご一層の普及、発展と、加盟校の経済的負担軽減を目指し、全加盟校(硬式、軟式)へ金属製バットを各校2本ずつ配布した。

5. 高等学校野球に関する講習会・研修会の開催

(1) 新任理事長研修会

令和5年度新たに就任した都道府県連盟理事長・専務理事7人(秋田、山形、千葉、奈良、広島、山口、高知)を対象に、令和5年5月24日(水)、同25日(木)の2日間、中澤佐伯記念野球会館で研修会を開催しました。

(2) 審判講習会

第63回全国審判講習会を令和5年4月29日(土)、30日(日)の両日開催。実技は阪神甲子園球場、座学は兵庫県立総合体育館で実施。各都道府県から参加した受講者48人(各都府県1人、北海道は2人)を対象にルール研修や実技指導を行いました。

北海道をはじめ9地区の地区別審判講習会に講師を派遣、地方審判の技術向上に努めました。

日本高校野球連盟審判委員の技術向上及び人財育成のための指導力向上を目的に審判委員スキルアップ研修会を令和6年2月25日(日)、座学研修を中澤佐伯記念野球会館で行った。対象者は第96回選抜高等学校野球大会に委嘱された審判委員。

また、プロとアマとの審判の交流、情報交換を目的に令和6年1月23日(火)

に第27回プロアマ合同審判研修会を対面(中沢佐伯記念野球会館)とオンラインを併用して開催しました。日本野球機構審判部から20人、アマ(社会人3人、大学5人、高校34人)の合計62人が参加しました。

(3) 指導者育成プログラム「高校野球・甲子園塾」

高校野球のよき指導者となるために、教員在籍10年未満の指導者を対象に2回開催しました〔第1回；令和5年11月24日(金)から26日(日)、第2回；令和5年12月8日(金)から10日(日)のそれぞれ3日間〕。それぞれ27人が参加して、近府県加盟校の協力を得て、グラウンドでの実技研修ならびに兵庫県立総合体育館で座学研修を行いました。

(4) プロ野球現役選手によるシンポジウム「夢の向こうに」

日本野球機構、日本プロ野球選手会の協力を得て、1ヵ所で開催しました。開催結果は次のとおり。

(ア) 令和5年12月16日(土) 北海道北広島市・エスコンフィールド北海道

受講者；参加校数81校、部員約370人

6. 高等学校野球を通じた国際交流及び国際相互理解の推進

年度内に次の国際大会に参加し、野球を通じて諸外国と親善、友好を深めるとともに、相互の競技力向上に努めました。

(1) 第31回WBSC U18 ベースボールワールドカップ

令和5年8月31日(木)から9月10日(日)までの11日間(休養日1日)、台湾・台北で開催された第31回WBSC U18 ベースボールワールドカップに高校日本代表チームが出場しました。参加は12カ国・地域。

◇最終順位

| | | | |
|-----|---------|-----|-------------|
| 第1位 | 日本(初優勝) | 第2位 | チャイニーズタイペイ、 |
| 第3位 | 韓国 | 第4位 | アメリカ |

7. 高等学校野球に関する関係諸団体との協力及び提携

(1) 野球各団体との提携

全日本野球協会、日本野球連盟、日本学生野球協会、全日本大学野球連盟と定期的に打ち合わせを開催。

(2) 学生野球資格回復に関する協議会

日本学生野球協会と日本野球機構ならびに日本プロ野球選手会が元プロ野球選手の学生野球資格回復について検討する学生野球資格回復に関する協議会に参画しました。

8. 就学前児童、小学生、中学生に対する野球の普及、振興

小学校、中学校野球選手、部員等のスポーツ障害予防及び健康増進
小学校、中学校野球に関する関係諸団体との協力及び提携

(1) 高校野球200年構想関連事業

普及、振興、けが予防、育成、基盤作りをテーマに、高校生だけでなく就学前児童、小学生、中学生まで対象を拡げて、各種事業を実施した。46連盟で都道府県高校野球連盟主体事業、ちびっ子ベースボールフェスティバル1件、新規モデル事業4件が実施された。事業総支出は5,863万円。

以 上